

橋梁の点検孔が使えない、桁内部に雨水が溜まる —設計成果品の照査はしっかりしましょう—

事例の概要

事例1：単純鋼箱桁の上部工製作架設において、維持管理用点検孔を計画し製作を行いました。製作後、点検孔と落橋防止装置が重複し、点検孔が使えないことが判明しました。

事例2：上路式鋼ローゼ橋の製作架設において、ローゼ部材内部の排水孔の設置位置が不適切であり、常時、結露水及び侵入雨水が溜まる構造となっていました。

原因

設計成果品の照査不足。橋梁本体とアクセサリ一部においては異なる技術者が設計して

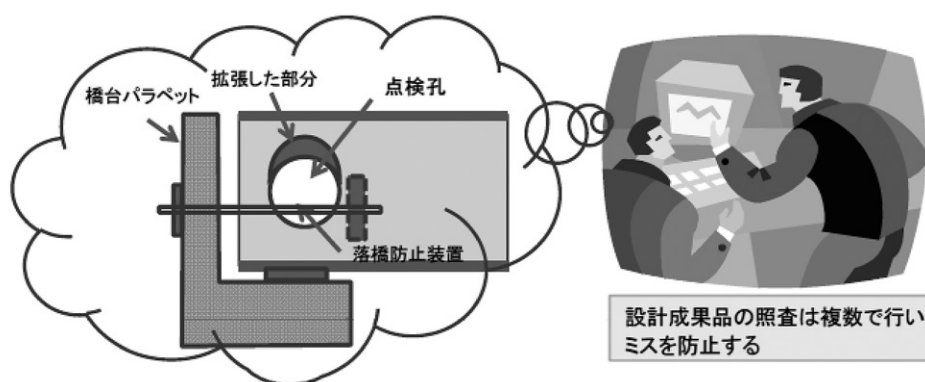
いるため、成果品を受け取る際に十分なチェックが必要でした。

対応策と教訓

事例1：現場にて点検孔の拡張を行いました。この際、橋梁本体への影響を確認するため、設計コンサルタントに再度計算をさせました。

事例2：工事の発注時点で判明できたので、水が溜まるローゼ部材のアンカー部に排水孔を設け対処しました。

いずれの事例も設計成果品の照査が不十分でした、ミスを防止するためには、必ず複数の職員で照査をしましょう。



CIM (Construction Information Modeling) (土木分野) の活用も！
「CIM」とは、計画・調査・設計段階から3次元モデルを導入し、その後の施工、維持管理の各段階においても3次元モデルに連携・発展させ、あわせて事業全体にわたる関係者間で情報を共有することにより、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図るものです。